

指定管理業務点検・評価シート(平成30年度業務)

令和元年7月31日

施設名	とっとりバイオフィロンティア	所在地	米子市西町133番地2
施設所管課名	商工労働部産業振興課	連絡先	0857-26-7244
指定管理者名	公益財団法人鳥取県産業振興機構	指定期間	平成26年度～平成30年度

1 施設の概要

設置目的	バイオ産業の集積の形成及び活性化を図り、県内産業の振興に寄与する。
設置年月日	平成23年4月1日
施設内容	○建築面積:1,260.84㎡ ○施設内容:研修室1、機器分析室1、遺伝子実験室1、細胞実験室1、実験室4、居室4、動物飼育室4、管理室1、オープンラボ1
利用料金	(別表のとおり)
開館時間	午前9時～午後5時 ただし、セキュリティカードを使用することで、開館時間外の利用も可能な場合あり。
休館日	○日曜日、土曜日、国民の祝日 ○12月29日～1月3日 ただし、セキュリティカードを使用することで、休館日の利用も可能な場合あり。

2 指定管理者が行う業務

委託業務の内容	○施設設備の維持管理に関する業務(施設設備の保守管理、修繕、清掃、保安警備等) ○施設設備、機器の利用の許可、利用料金の徴収等に関する業務 ○その他施設の管理運営に必要な業務(利用者の受付・案内、付属設備・備品の貸出、利用指導・操作、利用者へのサービスの提供、施設の利用促進、その他施設の管理運営に必要な業務) ○利用者の研究開発・事業化の支援に関する業務(相談・問い合わせへの対応、情報収集・情報提供、産学官連携の推進等) ○バイオ産業に従事する専門的な人材の育成に関する業務
---------	---

3 施設の管理体制

管理体制	正職員:2名、任期付職員:5名、非常勤職員:1名〔計8名〕
	<p>【体制図等】</p> <pre> 施設長(正職員、機構バイオフィロンティア推進室室長兼務) --- 副施設長(正職員、機構バイオフィロンティア推進室係長及び管理グループ長兼務) --- 管理担当スタッフ(任期付職員) --- 会計スタッフ(任期付職員、機構本部駐在) --- 事業推進グループ長(任期付職員) --- 地域連携コーディネーター(任期付職員) --- 人材育成コーディネーター(任期付職員) --- 機器管理担当スタッフ(任期付職員) </pre>

4 施設の利用状況

利用者数(人:貸実験室等入居者含む)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	30年度		3,077	3,253	3,145	3,321	3,329	3,190	3,474	3,219	3,110	3,072	2,912	3,105
29年度		2,598	2,734	2,885	2,851	2,802	2,744	2,861	2,981	3,036	2,850	2,672	3,170	34,184
増減		479	519	260	470	527	446	613	238	74	222	240	△65	4,023

利用料金収入 (千円)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	30年度	1,806	1,185	1,139	1,104	1,157	1,180	1,153	1,246	1,168	1,148	1,067	1,103	14,456
	29年度	2,160	1,865	1,734	1,653	1,652	1,689	1,702	1,650	1,709	1,676	1,711	1,730	20,931
	増 減	△ 354	△ 680	△ 595	△ 549	△ 495	△ 509	△ 549	△ 404	△ 541	△ 528	△ 644	△ 627	△ 6,475

5 収支の状況

区 分		30年度	29年度	増 減	
収入	事業収入	賃借料	8,316	8,263	53
		動物飼育ケージ管理料(鳥大5F)	609	8,344	△ 7,735
		動物飼育ケージ管理料(3F)	1,315	483	832
		機器使用料	4,216	3,841	375
		その他	2,629	488	2,141
		小 計	17,085	21,419	△ 4,334
	事業外収入	光熱水費負担金等収入	4,224	3,473	751
		自動販売機手数料	148	128	20
		受取利息	0	0	0
		県委託料	67,782	94,866	△ 27,084
小 計	72,154	98,467	△ 26,313		
計	89,239	119,886	△ 30,647		
支出	人件費	28,162	23,335	4,827	
	管理運営費	61,077	96,551	△ 35,474	
	計	89,239	119,886	△ 30,647	
収 支 差 額		0	0		

6 労働条件等

確認項目		状況			備考
		正職員	任期付職員	任期付職員 (本部常駐スタッフ)	
雇用契約 ・ 労使協定	労働条件の書面による提示	就業規則、任用条件 通知書	就業規則、任用条件 通知書	就業規則、任用条件 通知書	※書面の名称を記入
	就業規則の作成状況	有	有	有	※常時10人以上の労働者 を起床する場合は作成、届 出が必要
	労使協定の締結状況	時間外労働及び休日労働 に関する労使協定	時間外労働及び休日労働 に関する労使協定	時間外労働及び休日労働 に関する労使協定	※労働基準監督署長への届 出が必要な協定の有無
労働時間	所定労働時間	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	※幅がある場合は上限、下 限を記入
	時間管理の手法	自己申告	自己申告	自己申告	※タイムカード、ICカード、自 己申告、使用者の現認など の別を記入
	休暇、休日の状況	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、国 民の祝日	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、国 民の祝日	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、国 民の祝日	※幅がある場合は上限、下 限を記入
給与	給与金額	258千円/月	295千円/月	135千円/月	※平均月額を記入
	最低賃金との比較	適	適	適	※適否を記入
	支払い遅延等の有無	無	無	無	※有無を記入
安全衛生	一般健康診断の実施	年1回実施			
	産業医の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※規模の要件あり
	安全管理者の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※業種・規模の要件あり
	衛生管理者の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※規模の要件あり
	安全衛生推進者(衛生推進者)の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※業種・規模の要件あり

(参考)

○労働基準監督署長への届出が必要な労使協定の例(労働基準法に基づくもの)

- ・労働者の貯蓄金をその委託を受けて管理する場合(労働基準法第18条)
- ・1ヶ月単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の2 就業規則に定めた場合には届出不要)
- ・1年単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の4、第32条4の2ほか)
- ・1週間単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の5)
- ・時間外労働・休日労働(労働基準法第36条 いわゆる「36協定」)
- ・事業場外労働のみなし労働時間制(労働基準法第38条の2 事業場外労働が法定労働時間内の場合は不要)
- ・専門業務型裁量労働制(労働基準法第38条の3)

○各種管理者等の業種・規模に係る要件(労働安全衛生法に基づくもの)

種別	業種	規模(常時使用する労働者数)
産業医	全ての業種	50人以上

安全管理者	林業、鉱業、建設業、運送業、清掃業、製造業(物の加工業を含む。)、電気業、ガス業、熱供給業、水道業、通信業、各種商品卸売業、家具・建具・じゅう器等卸売業、各種商品小売業、家具・建具・じゅう器小売業、燃料小売業、旅館業、ゴルフ場業、自動車整備業及び機械修理業	50人以上
衛生管理者	全ての業種	50人～200人(1人選任) 201人～500人(2人選任) 501人～1,000人(3人選任) 1,001人～2,000人(4人選任) 2,001人～3,000人(5人選任) 3,001人以上(6人選任)
安全衛生推進者	安全管理者と同じ	10人以上50人未満
衛生推進者	安全管理者の選任を要する業種以外の業種	10人以上50人未満

7 サービスの向上に向けた取組み

区分	取組み内容
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度人材育成研修・セミナーを開催した(開催回数:18回、参加者数:延べ338名)。 ⇒バイオ知識、動物実験技術の向上、知的財産等に関する講座を開講し、バイオ産業が必要とする人材の育成を支援した(開催回数8回、参加者数延べ256名)。 ⇒利用者から要望のあった実験分析機器のメーカー担当者による使用に係る説明会・研修会を行い、実際の使用時にも財団担当職員による機器使用のサポートを行うことにより、利用者のスキル向上につなげた(開催回数10回、参加者数延べ82名)。 ・創業ベンチャーの起業・育成のためバイオ技術知識に加え、起業や経営能力を兼ね備えた人材育成が必要であることから、バイオフィロンティアの人材育成講座において「バイオビジネスノアントレプレナー育成講座」を実施。 ⇒H30年度実績:3講座・受講数95名 ⇒主なテーマ:製薬企業における信頼性保証などの事例報告 ⇒受講者:バイオベンチャー、鳥大教員及び学生など ・県内企業及び学生等に対して、専門性の高い実践的なカリキュラムを提供し、人材育成を進めている。
設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ・実験機器については、日々作動確認を行い、不調等が確認された場合、設置業者またはメーカーによる対応を行った。 ・実験の実施に当たっては利用者が各種法令に基づく適正な実験や動物管理が行えるようマニュアルを作成し、誰でも分かるよう掲示した。 ・動物実験実施者が施設及び実験機器をより利用しやすくなるように管理マニュアルを改訂した。 ・施設入居者より要望のあった設備を整備した。(詳細は「8利用者意見への対応」に記載) ・利用者の意見を聞き、使用頻度が高い実験分析機器を新たに導入し、利用者の利便の向上を図った。 ・利用者からの要望のあった実験分析機器メーカー担当者による使用のサポートを行うことにより、利用者のスキルの向上に繋がった。 ・動物実験実施者が日常的に飼育施設を管理する際に飼育器材の搬出および搬入の利便性が向上するよう鳥取大学側と調整し、飼育器材の設置スペースを整備した。 ・「とっとりバイオフィロンティアの管理運営に関する協定書」に基づき定めた「とっとりバイオフィロンティア化学物質管理規則」に基づき、実験、施設管理で必要となるキシレン、メタノールなどの薬品・有害物については、施設にある倉庫内の薬品庫に保管し、管理台帳を基に使用に関し厳重に管理した。
事業化支援	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオ関連学会・セミナー等に積極的に参加し、バイオ関連情報の収集に努め、施設利用者に最新のバイオ業界の動向やバイオ関連企業のニーズなどの情報提供を行った。 ・県内企業及び県外製薬企業などを訪問し、施設への入居及び開放機器の利用案内を行い施設利用促進に向けての活動を行った。 ・バイオ系大型展示会に出展し、出展社セミナーの他、ブース内プレゼンも企画し共同出展の製品・技術PRを支援した。 ①2018 BIO International Convention(6/4～7:米国・ボストン) ②第2回バイオ医薬EXPO(6/27～29:東京) ③Bio Japan 2018(10/10～12:横浜) ④メディカルジャパン2019(2/23～25:大阪) ・利用企業等が持つ資源と大手製薬会社とのマッチングなどのコーディネート等の事業支援を積極的に行った。 ・実験を行うに当たっては実験者からの申請書を基に、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会において審査を行って、適正な実験管理を実施した。 ・化学物質のリスクアセスメント研修等を実施し、法令や最新の知見に基づいた適切な安全管理を行った。 ・平成26年度からスタートした鳥取大学のキノコ菌株コレクションを活用した産学官の共同事業「きのこプロジェクト」を継続支援、機構は各機関の調整役となり米子と湖山において多くの会議を開催し、事業化戦略・外部との連携においては中心的な役割を担い、地域活性化を目指す産学官の共同事業を大きく推進した。 ・入居者が情報収集やニーズ・トレンド把握を希望するバイオ関連学会・セミナー等を中心に積極的に参加し、バイオ関連情報の収集に努め、施設利用者に最新のバイオ業界の動向やバイオ関連企業のニーズなどの情報提供を行った。 ・R&Dコーディネーターを中心として、県内企業及び県外製薬企業などを訪問し、施設への入居及び開放機器の利用案内を行い施設利用促進に向けての活動を行った。

その他	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より鳥取大学臨床実験施設5階動物飼育室が指定管理区域外となった(⇒"5収支の状況"の県委託料、動物飼育ケージ管理料(鳥大5F)及び管理運営費の収支の減は動物飼育室が指定管理の対象外となったことに伴うもので全体の収支に影響を及ぼすものではない。) ホームページを利用し、施設の目的・概要、から利用料金まで幅広い情報を提供した。また、「facebook」を活用した情報発信を行った。 企業へのPRを意識したパンフレット、DVDの制作、イベント時に資料を入れる紙袋やクリップ等のノベルティグッズを企画、作成し、イベント時に配布し、PRに努めた。 専門展示会出展及び学会・セミナー等に参加し、関係者に対する施設説明、パンフレットの配布などを行い、関係者への周知を図った。 化学物質管理委員会・職場巡視の実施等、行い、館内利用者の白衣の着用率が向上した。
-----	--

8 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	<p>利用者の要望、意見については7月に行った利用者への説明会兼意見交換会にて把握し、また、日々、利用者とのコミュニケーションを図り、要望への対応、課題の解消に努めた。</p>
------------	--

利用者からの苦情・要望	対応状況
新しい機器の導入をして欲しい。	担当者に直接口頭で言われる事が多く、会社としての要望が個人レベルの要望かも把握しづらい状況にあったため、機器購入ルールを作成。
渡り廊下の臭気対策をして欲しい。	換気扇設置
新規利用者講習をして欲しい。	次年度より新規利用者講習会を実施することとした。

利用者からの積極的な評価	<ul style="list-style-type: none"> BioJapan等大型展示会・商談会への出展支援等及び企業PRを進めてもらうことで事業の展開の幅が広がった。 企業訪問の同行を依頼することで、企業間のマッチングへの移行がスムーズに行えるようになった。 展示会出展及びセミナー等がきっかけとなり共同開発へと発展した。 機器使用の説明会等を企画し参加することで研究の効率と進捗の向上が図られる。 機器が揃っていて非常に実験しやすい環境である。 機器利用料金が非常に安価で研究環境が整っていて便利である。
--------------	---

9 指定管理者による自己点検

<p>【成果のあった取組み・積極的に取り組んだ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> バイオ知識や動物実験技術の向上、知的財産に関する講座を開講し、施設利用企業等が必要とする人材の育成を支援した。 地元企業の展示会出展を積極的に推し進めた。 セミナー・学会等に積極的に参加し、バイオフィロンティアのPRを行うとともに、研究成果の事業化に向け、人工染色体技術に関するPR、マッチングの可能性について提案した。 利用企業等が持つ資源と大手製薬会社とのマッチングなどのコーディネート、ベンチャー企業の事業支援を行った。 創業ベンチャーの起業・育成のためバイオ技術知識に加え、起業や経営能力を兼ね備えた人材が求められていることから、バイオフィロンティアの人材育成講座の中で「バイオビジネス/アントレプレナー育成講座」を企画し、バイオ産業に必要な人材育成の支援を積極的に実施した。 鳥取大学染色体工学研究センター及び入居企業と、米子高専・医工連携研究センターとの共同研究推進において橋渡しの役割を担い、バイオ計測機器により取得した多量データを簡便に解析するシステムの構築をサポートした。 鳥取大学や入居企業からのバイオテクノロジーに関する特許の調査依頼に対応し、協議を重ね、産学が中心となって進める知財戦略をサポートした。 バイオフィロンティアに隣接するとっとり創薬実証センター(H30.4開設、鳥取大学所管)と連携した研究開発支援、県内企業及び学生等を対象とした次世代人材育成支援など新たなサービス提供にも取り組んでおり、更なるバイオ産業集積に向けた成果発現に期待。
--

<p>【現在、苦慮している事項】【今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の利用拡大と事業化の推進。 居室等が満室で今後の研究等の進展でベンチャーや共同研究参画社の入居希望に応えられない状況にある。入居者からのスペース拡大や県内外からの入居希望もある一方、入居企業の事業が自立して退出するまでには育っていない。入居企業の自立を視野に入れた中長期的なビジネスプランの構築と入居企業の循環が課題。 地域産業振興へのつながりについて、出口戦略が製薬企業であり地域企業とのつながりがやや希薄。地域企業との接点の拡大に努めている。 産学官連携の拠点施設「とっとり創薬実証センター」が「とっとりバイオフィロンティア」に隣接して整備。今後、両施設の連携を強化することで研究成果を活用した大手製薬企業等との共同で医薬品の開発、創薬ビジネスの加速化を目指す。 開放機器の経過年数等に伴う劣化への対応(修繕等)と中長期的な機器更新が課題。 事業及び研究支援と併せて、経営(知財、財務管理、IPO等)に関する支援等の取組みも継続的に推進する。 創薬、医療機器分野等の先端技術分野での起業、事業化に対しては、今後とも重点的な支援に努めるとともに、県内企業及び学生等に対して、専門性の高い実践的なカリキュラムを提供し、人材育成を進める。

10 施設所管課による業務点検

項 目	評 価	点 検 結 果
[施設設備の維持管理・緊急時の対応等] ○施設設備の保守管理・修繕 ○施設の保安警備、清掃等 ○事故の防止措置、緊急時の対応	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
[施設の利用の許可、利用料の徴収等] ○利用の許可 ○適正管理に必要な利用者への措置命令 ○利用料金の徴収、減免	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
[その他管理施設の管理に必要な業務] ○利用受付・案内 ○附属設備・備品の貸出し ○利用指導・操作	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・利用者から要望のあった実験分析機器のメーカー担当者による使用に係る説明会・研修会を実施。利用者からは機器の操作技術向上に繋がると好評。併せて、実際の使用時にも財団担当職員による機器使用のサポートやテクニカルなサポート・指導を継続的に行うことで、操作操作技術だけでなく利用者の研究の効率にも貢献できた。
[利用者サービス] ○開館時間、休館日、利用料金等 ○利用者へのサービス提供・向上策 ○施設の利用促進 ○個人情報保護、情報公開 ○利用者意見の把握・対応	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・施設入居者の要望により、ラット・マウスの臭気対策のため換気設備を新たに整備。施設内の臭気・換気・衛生の改善が図られた。利用者の施設及び研究の環境の向上にも大きな効果があった。 ・数年ぶりにバイオフィロンティアのパンフレットを刷新。より大手企業のPRを強調し、更に県の経済成長創造戦略を紹介するとともにバイオフィロンティアが地域の強みを活かした産業に貢献をしている施設であることを分かりやすく解説した。専門展示会等でバイオフィロンティアの施設・入居企業等の紹介・情報提供に役立ち、施設とバイオ技術のPRに効果があった。
[利用者総合支援業務の実施状況] ○利用者の研究開発及び事業化推進(事業計画、進捗状況把握等) ○利用者のニーズ把握、情報提供 ○人的ネットワークの構築 ○事業運営委員会等の運営	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・H30年度は国内だけでなく海外のバイオ系大型展示・商談会に出展支援を実施。創業ベンチャー等が持つ資源と海外の大手製薬会社とのマッチングの支援を図った。結果、海外の製薬企業との共同開発等への道筋が広がった。 ⇒米国ボストンで開催された「2018 BIO International Convention(6/4～7)」に参加。海外の製薬会社から共同開発等に関する問い合わせ多数。共同開発等へ向けた成果を着実に結びつつある。
[バイオ人材育成事業の実施状況] ○人材育成カリキュラム作成・研修実施 ○広報等 ○事業評価、ニーズ把握、効果検証	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・近年、創業ベンチャーの起業・育成のためバイオ技術知識に加え、起業や経営能力を兼ね備えた人材が求められていることから、昨年度と比較してバイオフィロンティアの人材育成講座のうち「バイオビジネス／アントレプレナー育成講座」を拡充させた。(H29年度1講座⇒H30年度3講座)。今後も利用者の意見を聞き、必要な講座を開催予定。研究者のバイオベンチャーへの起業や経営の機運の醸成に貢献している。
[収入支出の状況]	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・昨年度と比較して機器使用料及び動物飼育ケージ管理料(3F)が増収。施設の収入増加に貢献した。
[会計事務の状況]	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
[職員の配置] ○業務全体の総括責任者		

○染色体工学技術を中心としたバイオテクノロジーに関する専門知識を有する者 ○動物実験に関する経験者 ○利用者の要望に応えられる体制	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
[関係法令の遵守]	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
総 括	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。

《評価指標》5: 協定書の内容について高レベルで実施されており、また、計画・目標を上回る実績があり、優れた管理運営がなされている。

- 4: 協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。
3: おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
2: 協定書の内容に対して不適切な事項が認められ、また、計画・目標を達成していない。
1: 協定書の内容に対して重大な違反事項が認められる、指摘済みの不適切事項が放置されている、計画・目標、前年度実績を大きく下回っているなど、大いに改善を要する。

※総括欄は、各項目の平均の小数点以下第2位を四捨五入した数値を基本に、総合的に評価する。

(別表1)

実験室等

名 称		面 積	備 考
1階	オープンラボ	214 m ²	
3階	実験室 (4室)	311、312	37.47 m ²
		313、314	38.67 m ²
	動物飼育室 (4室)	10.53 m ²	
	居室 (4室)	301、302	20 m ²
303、304		20.6 m ²	

研修室

名 称		面 積	備 考
1階	研修室	42 m ²	

開放機器

2階細胞実験室	2階遺伝子実験室	2階機器分析室	2階試薬管理室
クリーンベンチ	安全キャビネット	サイドオープンL型ド ラフトチャンパー	小型動物麻酔器
倒立型ルーチン顕微鏡	オートクレーブ	サイドオープンR型ド ラフトチャンパー	薬用冷蔵ショーケース
3眼鏡筒倒立型ルーチ ン顕微鏡(デジカメ付)	小型冷却遠心機	動物組織固定装置	薬用保冷库
スイング型冷却遠心機	ゲル撮影装置	密閉式自動固定包埋装 置	超低温フリーザー
安全キャビネット	微量サンプル計測設備	パラフィン包埋ブロッ ク作製装置	
オートクレーブ	分光光度計	マイクローム	
倒立型蛍光顕微鏡	PCRマシンI	パラフィン溶融器	
オールインワン顕微鏡	PCRマシンII	パラフィン伸展器	
大型遠心分離機	乾熱滅菌乾燥機	感染防止対策用クリオ スタット	
遺伝子導入装置	実験用器具自動洗浄機	血液生化学分析機	
生物顕微鏡	超遠心分離機	全自動万能回転型ミク ロトーム	
実体顕微鏡	化学発光・蛍光検出機	プログラムフリーザー	
インキュベータ顕微鏡	多検体サンプル粉碎機	超低温フリーザB	
セルアナライザ	超音波サンプル粉碎機	薬用冷蔵ショーケース	
発光ライブセルイメー ジングシステム	リアルタイムPCR	薬用保冷库	
培養細胞リアルタイム 発光計測装置	遺伝子抽出装置	薬品保冷库	
プレートリーダー	共焦点顕微鏡	薬品器具棚	
CO ₂ インキュベータ -A	染色体解析専用顕微鏡	薬品冷蔵庫	

CO2 インキュベーターB	マイクロダイセクション	実体蛍光顕微鏡	
CO2 インキュベーター（一区画ごとの貸し出し専用）	バイオサンプル粉碎装置		
超低温フリーザA	冷却大型振とう培養機		
薬用冷蔵ショーケース	冷却小型振とう培養機		
薬用保冷庫	大腸菌培養用インキュベーター		
細胞保存用液体窒素タンク	薬用冷蔵ショーケース		
	高感度冷却CCDカメラ		

(別表2)
実験室等

名 称		面 積	利用料金	備 考	
1階	オープンラボ	214 m ²	306,020 円/月	電気代・水道代は 使用実績に応じ別 途徴収	
3階	実験室 (4室)	311、312	37.47 m ²		53,580 円/月
		313、314	38.67 m ²		55,290 円/月
	動物飼育室 (4室)		10.53 m ²		15,050 円/月
	居室 (4室)	301、302	20 m ²		28,600 円/月
		303、304	20.6 m ²		29,450 円/月

備考

利用期間が1月未満であるとき、又は利用期間に1月未満の端数があるときは、日割りをもって計算するものとする。

(別表3)

	名 称	面 積	利用料金	備 考
1階	研修室	42 m ²	252 円/時間	プロジェクター 470 円/1 時間 スクリーン 100 円 /1 時間 暖房又は冷房を使 用したときは、78 円/時間を加算

(別表4)

開放機器

(ア) 時間又は日単位で貸し出すもの

階数	区分	単位	利用料(円)	備考
2階	細胞実験室、遺伝子実験室、機器分析室 動物飼育室(実験室)	1 機器当たり 1 時間につき	100	・一般機器、専門機器が対象
		全機器を対象に 1 日につき	3,080	・一般機器、専門機器が対象 ・1日は、午前9時から翌午前9時までとする。
		全機器を対象に 4 時間につき	1,540	・一般機器、専門機器が対象
		一般機器全てを対象に 1 日につき	1,020	・一般機器が対象 ・1日は、午前9時から翌午前9時までとする。
		一般機器全てを対象に 4 時間につき	510	・一般機器が対象

(イ) 日単位で貸し出すもの

階数	区分	単位	利用料(円)	備考
2階	細胞実験室、遺伝子実験室、機器分析室	1 機器当たり 1 日につき	100	・保管系機器が対象 ただし、CO ₂ インキュベーター、冷却大型振とう培養機、冷却小型振とう培養機以外は、1 機器の区画を区切った利用を想定 ・1日は、午前9時から翌午前9時までとする

◇一般機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
クリーンベンチ	安全キャビネット	サイドオープンL型ド ラフトチャンバー	
倒立型ルーチン顕微鏡	オートクレーブ	サイドオープンR型ド ラフトチャンバー	
3眼鏡筒倒立型ルーチ ン顕微鏡(デジカメ付)	小型冷却遠心機	実体蛍光顕微鏡	
スイング型冷却遠心機	ゲル撮影装置		
安全キャビネット	微量サンプル計測設備		
オートクレーブ	分光光度計		
倒立型蛍光顕微鏡	PCRマシンI		
オールインワン顕微鏡	PCRマシンII		
大型遠心分離機	実験用器具自動洗浄機		
遺伝子導入装置			
生物顕微鏡			
実体顕微鏡			
CO ₂ インキュベータ ー(一区画ごとの貸し 出し専用)			

◇専門機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
インキュベータ顕微鏡	超遠心分離機	動物組織固定装置	小型動物麻酔器
セルアナライザ	化学発光・蛍光検出機	密閉式自動固定包埋装 置	
発光ライブセルイメー ジングシステム	多検体サンプル粉碎機	パラフィン包埋プロッ ク作製装置	
培養細胞リアルタイム 発光計測装置	超音波サンプル粉碎機	マイクローム	
プレートリーダー	リアルタイムPCR	パラフィン伸展器	
	遺伝子抽出装置	感染防止対策用クリオ スタット	
	共焦点顕微鏡	血液生化学分析機	
	染色体解析専用顕微鏡	全自動万能回転型ミク ローム	
	マイクロダイセクショ ン	プログラムフリーザー	
	バイオサンプル粉碎装 置		
	高感度冷却CCDカメ ラ		

◇保管系機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
CO ₂ インキュベーターA	冷却大型振とう培養機	超低温フリーザB	薬用冷蔵ショーケース
CO ₂ インキュベーターB	冷却小型振とう培養機	薬用冷蔵ショーケース	薬用保冷库
超低温フリーザA	大腸菌培養用インキュベーター	薬用保冷库	超低温フリーザー
薬用冷蔵ショーケース	薬用冷蔵ショーケース	薬品保冷库	
薬用保冷库	乾熱滅菌乾燥機	薬品冷蔵庫	
細胞保存用液体窒素タンク		パラフィン溶融器	

(別表5)

ゲージ管理料

場所	利用料	備考
3階動物飼育室	1ゲージ1日あたり40円	